



京浜港湾事務所

- 工事名 **横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事**
横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事(その2)
横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事(その3)
横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事(その4)

工事内容 本工事は、横浜港新本牧地区護岸のハイブリッドケーソンを製作します。

	工事名	工期	施工会社
1	横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事	R3.9.30 ~ R4.10.28	エム・エムブリッジ株式会社
	本工事は、横浜港新本牧地区護岸の工場製作工及び本体工(ケーソン式)を施工するものです。		
2	横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事(その2)	R3.9.30 ~ R4.10.28	日立造船株式会社
	本工事は、横浜港新本牧地区護岸の工場製作工及び本体工(ケーソン式)を施工するものです。		
3	横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事(その3)	R3.10.26 ~ R4.11.30	エム・エムブリッジ株式会社
	本工事は、横浜港新本牧地区護岸の工場製作工及び本体工(ケーソン式)を施工するものです。		
4	横浜港新本牧地区護岸(防波) 本体工事(その4)	R3.10.27 ~ R4.12.23	JFEエンジニアリング株式会社
	本工事は、横浜港新本牧地区護岸の工場製作工及び本体工(ケーソン式)を施工するものです。		

●本工事の施工記録



鋼殻完成・工場出荷
令和3年7月



鋼殻海上輸送・水切り
令和4年7月



ハイブリッドケーソン製作
令和4年9月

●進捗状況・お知らせ

2022年7月まで工場にて「鋼殻」計12函を製作し、現在、コンクリート打設を行っており、ハイブリッドケーソン計12函を製作しております。



横浜港国際海上コンテナターミナル再編整備事業

▽新本牧ふ頭 位置図



▽工程表

	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
岸壁(水深18m)									
護岸(防波)									
防波堤									
荷さばき地									
道路									

▽ (新本牧ふ頭) 施工位置図



施工状況

準備工

函台整備

マット工

鉄筋工

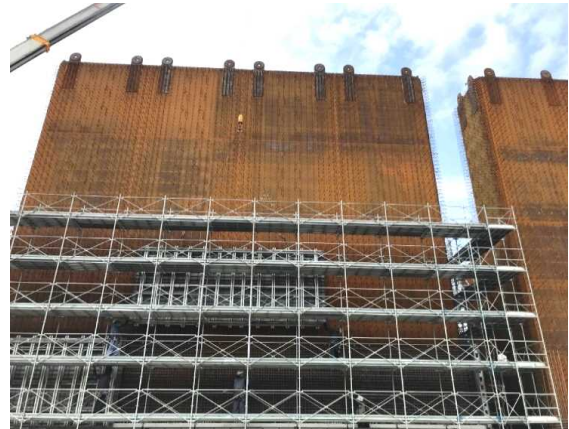
型枠工

コンクリート工

片付工



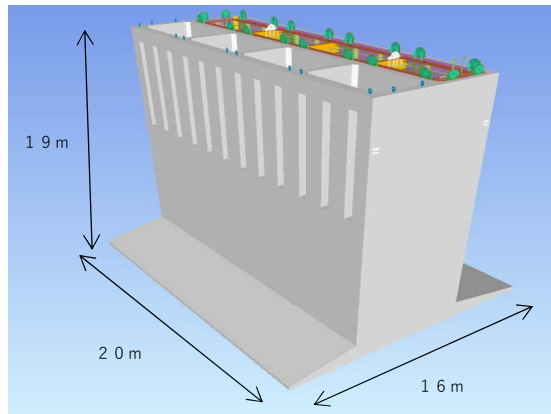
鉄筋組立



型枠組立（鋼製型枠）



コンクリート打設（ポンプ車打設）

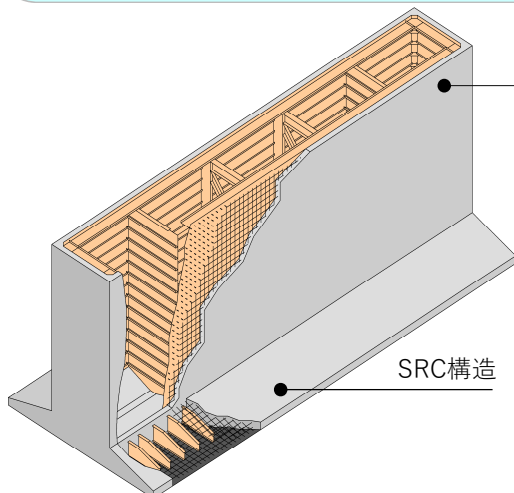


ハイブリッドケーソン完成イメージ

ハイブリッドケーソンの特徴

ハイブリッドケーソンは、鋼板を片側に配置した合成版構造と、H型鋼を内部に埋込んだSRC構造の2種類が使用され、この両者の構造形式を使用したケーソンの総称として使用しています。

- (1) 鋼材の使用により、曲げやねじれに対する剛性を高めることができ、ケーソンの長尺化が可能になります。
- (2) 鋼材の使用により、部材断面を小さくすることができ、ケーソンの軽量化が可能になります。
- (3) 鋼材の使用により、大型フォーミング構造が実現でき、地盤反力の低減、堤体のスリム化が可能になります。



オープンサンドイッチタイプ

SRC構造

◎合成版構造とは

鋼板とスタッドを用いた“オープンサンドイッチタイプ”と鋼材を鉄筋コンクリートの中に埋め込んだ“SRCタイプ”があります。

